

# 「点」をネットワークさせる

## 「星座式」まちづくりへの展望

近代化産業遺産を地域資源として支援へ



東大大学院教授 ● 西村幸夫

### 産業遺産への熱いまなこ

産業遺産を文化財として再評価する動きは、一九九〇年から文化庁の主旨によって始まった近代化遺産としての建造物の県別総合調査によって大きく前進した。各地に残る古びた工場やうち捨てられたような多くの産業遺産を、日本の近代化を先導した遺産群としてとらえ直すことにより、その価値と意義を見いだすことを通じて、新しい文化財概念を拡げるといふ試みである。

そして、近年ではこうした産業遺産を迫真力のある美的なものとしてとらえる動きや、観光の一資源として見なす動きが活発になってきている。例えば、工場や廃墟を被写体とした写真集・DVDの発行が相次いでいる。工場に関しては、『工場萌え』（石井哲・写真、東京書籍、二〇〇七年）

や『工場地帯・コンビニナート』（かさこ・著、グラフィック社、二〇〇七年）が話題を集め、DVDでは『工場萌えな日々』（二〇〇六年）、『同2』（二〇〇七年）、『工場幻想曲』（二〇〇六年）、『同2』（二〇〇七年）などが相次いで出されている。「工場萌え」は、そのまま流行語にもなっている。

廃墟一般に関してはさらにこれより早く、『廃墟遊技』（小林伸一郎・著、メディアファクトリー、一九九八年）や『廃墟を行く』（小林伸一郎ほか・著、二見書房、二〇〇二年）、『廃墟探訪』（中田薫・著、関根虎洗ほか・写真、二見書房、二〇〇二年）を皮切りに、『廃墟本』（写真・中筋純、ミリオン出版、二〇〇五年）、『同2』（同、二〇〇七年）など数多くの写真集やDVDが出され、時代は廃墟ブームの様相を呈しつつある。

こうした産業遺産を観光資源としてとらえ、産

みならず、産業の過去にも目を向けた近代化産業遺産の顕彰を行うという施策がようやくとられるようになってきた。従来、将来ばかりに関心を注いできた経済官庁が、過去にまで目を向け、ここにも将来に役立つ資産があるというように考えるようになってきたのである。

以前、同省経済産業政策局スタッフと将来施策に関してフランクな議論を交換していた時、私はこの際、近代化を支えた産業界の人々の努力の物語にスポットライトを当てた顕彰のシステムが必要ではないかと思うに至った。文化財だと考えると、価値付けのための詳細な比較検討が求められることになるが、ここで必要なのは背後にある人くさいストーリーであって、単体としてのモノだ

けではない。加工のための初期の機械や最終的な製品第一号など、製造のためのマニュアルや創業者の生家までも含めた、血と汗のにじむ物語こそ大切なはずである。それにこうした切り取り方をすると、文化庁とは異なる経済産業省の立場も活かすことができるだろう。

こうした議論が土台となって、経済産業省のイニシアティブの下、二〇〇四年四月に産業遺産活用委員会が組織された。メンバーには産業考古学や文化財、社史の専門家をはじめとして、観光関連の専門家や作家、ジャーナリストなど十三人が任命され、このの成り行き上、私が座長を務めることとなった。近代化産業遺産の魅力的なストーリーを選び出す作業が始まったのである。

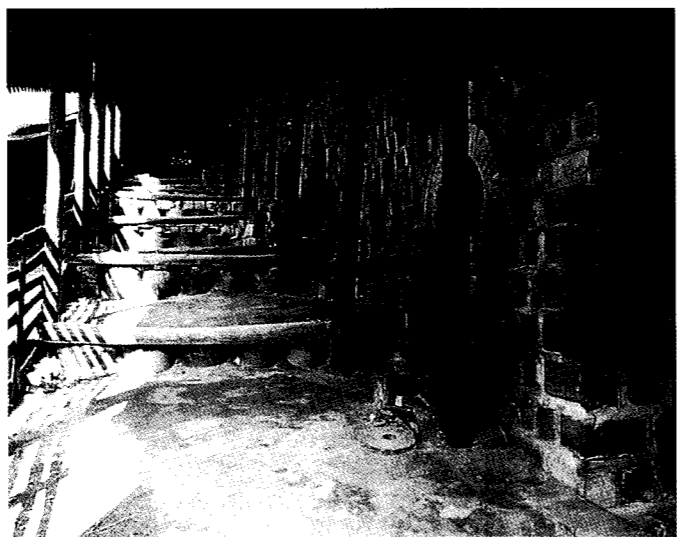
作業に当たっては、広く各地の行政団体および民間組織から先人の歩みを象徴する近代化産業遺産を公募し、これらを可能な限り取り込んで魅力的な近代化産業遺産の物語を掘り起こしていった。これらを委員会において一つ一つ吟味し、経済産業省として認定できる物語を確定させていった。取りまとめに当たって、幕末から戦前までの産業遺産を対象とすること、建造物をもとより、画期的な製品や設備機器、関連文書、復元物や模型なども対象とすること、産業の発展過程において主としてイノベーター的な役割を果たした産業遺産を対象とすること、つまり、江戸時代からの伝統的な手法を踏襲する産業の遺産は、原則として取り上げないことを確認した。

産業遺産活用委員会の議論では当初、日本の産業近代化の全貌がそれほど簡単に把握できるのかといった疑念が委員の間に漂っている感もなくは

業観光を推進しようという動きも活発で、ものづくりの本場である東海地方や富山県などで、さまざまな仕組みが動き始めている。例えば、愛知県では商工会議所が中心となって、二〇〇一年の産業観光サミットをきっかけに産業観光推進宣言が採択され、「産業観光の日」、「産業観光週間」を定めているのははじめとして、多くの施策が実施されているほか、富山県ではやはり県の商工会議所の中にとりま産業観光推進協議会が組織され、産業観光のモデルルートが設定されるなどの動きが見られる。こうした実験的な試みは、工場地帯を抱える各地の自治体に広がつつある。

### 経済産業省による近代化産業遺産の認定

このような情勢を背景に、経済産業省でも地域活性化の一つの方策として、いわゆる産業振興の



現存する日本最大級の登梁（愛知県常滑市）

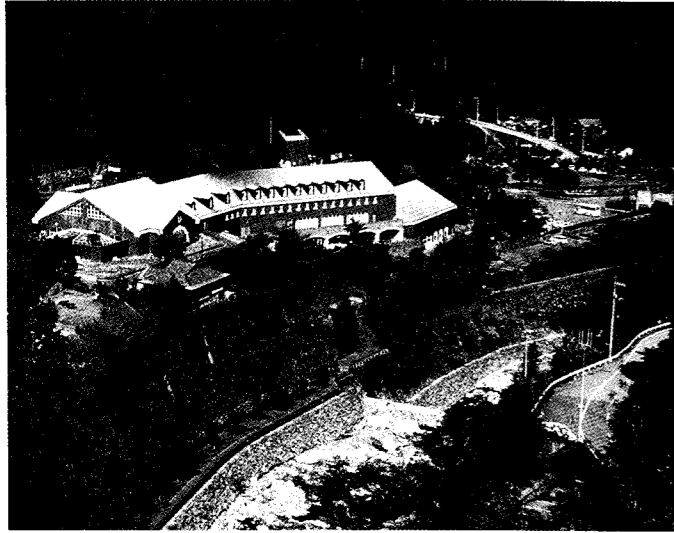
なかつたが、次第に物語の広がりや面白さに委員のメンバーが強く動かされるようなムードとなり、最後は「よくやった」と言った充実感が委員会の雰囲気支配していた。

議論の結果、三十三のストーリーを「近代化産業遺産が紡ぎ出す先人たちの物語」として選び出したのである。その一覧を表1（※次ページ）に示す。これは日本が独立国として産業構造の発展、地域の自立のために、さまざまな試みを続けてきたことの意義を全国的な視点で評価しようとする代表例として、後世に記憶されるだろう。

二〇〇七年十一月三十日、横浜・新港埠頭の再生された赤煉瓦倉庫で近代化産業遺産群の認定式が開催された。認定証と認定のプレートは甘利明経済産業大臣から直々に授与された。全国各地か



ブドウ・ワインの輸送に利用した「祝橋」（山梨県甲州市）



テーマパークのマイントピア別子・端出場ゾーン（愛媛県新居浜市）

ら自治体の首長やメーカーの社長や工場長が多数出席し、華々しい認定証交付式になった。

### 近代産業発展の物語群選定と新たな地域資源の誕生

この試みのユニークな点は、近代化を支えた日本の産業遺産を個別単体ではなく、先人たちの努力の物語であることと、物語群を選んでいる点である。例えば、「我が国の近代化を支えた北海道産炭地域の歩みを物語る近代化産業遺産群」「激しい産地間競争等を通じた近代産業へと発展した利根川流域等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群」、さらには「羽二重から人絹へ」新

### 33近代化産業遺産群に係るストーリー及び構成遺産

番号	タイトル
1	『近代技術導入の始まり』海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群
2	欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群
3	鉄鋼の国産化に向けた近代製鉄業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
4	建造物の近代化に貢献した赤煉瓦生産などの歩みを物語る近代化産業遺産群
5	外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光産業草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群
6	我が国の近代化を支えた北海道産炭地域の歩みを物語る近代化産業遺産群
7	北海道における近代農業、食品加工業などの発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
8	洋紙の国内自給を目指し北海道へと展開した製紙業の歩みを物語る近代化産業遺産群
9	有効の金属供給源として近代化に貢献した東北地方の鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群
10	京浜工業地帯の重工業化と地域の経済発展を支えた常陸地域の鉱工業の歩みを物語る近代化産業遺産群
11	新潟など関東甲信越地域で始まった我が国近代石油産業の歩みを物語る近代化産業遺産群
12	銅輸出などによる近代化への貢献と公害対策への取組みに見る足尾銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群
13	『上州から信州そして全国へ』近代製糸業発展の歩みを物語る富岡製糸場などの近代化産業遺産群
14	『貿易立国の原点』横浜港発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
15	優れた生産体制等により支えられる岡毛地域の絹織物業の歩みを物語る近代化産業遺産群
16	激しい産地間競争等を通じた近代産業へと発展した利根川流域等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
17	『重工業化のフロントランナー』京浜工業地帯発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
18	官民の努力により結実した関東甲信越地域などにおけるワイン製造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
19	近代技術による増産を達成し我が国近代化に貢献した佐渡、銅生面鉱山の歩みを物語る近代化産業遺産群
20	近畿の経済や中部のモノづくりを支えた中部山岳地域の電源開発の歩みを物語る近代化産業遺産群
21	我が国モノづくりの中核を担い続ける中部地域の繊維工業・機械工業の歩みを物語る近代化産業遺産群
22	『羽二重から人絹へ』新たなニーズに挑み続けた福井県などの織物業の歩みを物語る近代化産業遺産群
23	輸出品開発や国内需要拡大による中部、近畿、山陰の窯業近代化の歩みを物語る近代化産業遺産群
24	京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疎水などの近代化産業遺産群
25	我が国鉱業近代化のモデルとなった生野鉱山などにおける鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群
26	『軽工業から重工業へ』河津部から臨海部へ』阪神工業地帯発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
27	商業貿易港として発展し続ける神戸港の歩みを物語る近代化産業遺産群
28	日本酒製造業の近代化を牽引した灘・伏見等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
29	『東洋のマンチェスター』大阪と西日本各地における綿産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
30	地域と様々な関わりを持ちながら我が国の鋼生産を支えた瀬戸内の鋼山の歩みを物語る近代化産業遺産群
31	産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
32	九州南部における産業創出とこれを支えた電源開発・物資輸送の歩みを物語る近代化産業遺産群
33	近代の沖縄経済に貢献した『2つの黒いダイヤ』製糖、石炭両産業の歩みを物語る近代化産業遺産群

表1 地域活性化に役立つ近代化産業遺産33の物語

なニーズに挑み続けた福井県などの織物業の歩みを物語る近代化産業遺産群」などのように、対象となる産業や地域にスポットライトが当てられ、先人たちの努力の跡が語られているのである。また、近代化草創期の四つの物語、すなわち「近代技術導入の始まり」海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群」「欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群」「鉄鋼の国産化へ向けた近代製鉄業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群」、そして「建造物の近代化に貢献した赤煉瓦生産などの歩みを物語る近代化産業遺産群」は、全国に広がる近代化の努力の足跡を示すものであ

活用促進法において、地域の強みとなる特産品などと並んで、近代化産業遺産が地域の観光資源として認知され、その活用のために予算、金融、税制面および人材面で総合的に支援していく仕組みが前進したが、この法律における地域資源として、同省が認定した近代化産業遺産が含まれるということによって、多方面の支援が可能となってきたのである。

### 近代化に寄与した先人のドラマに思いをはせる

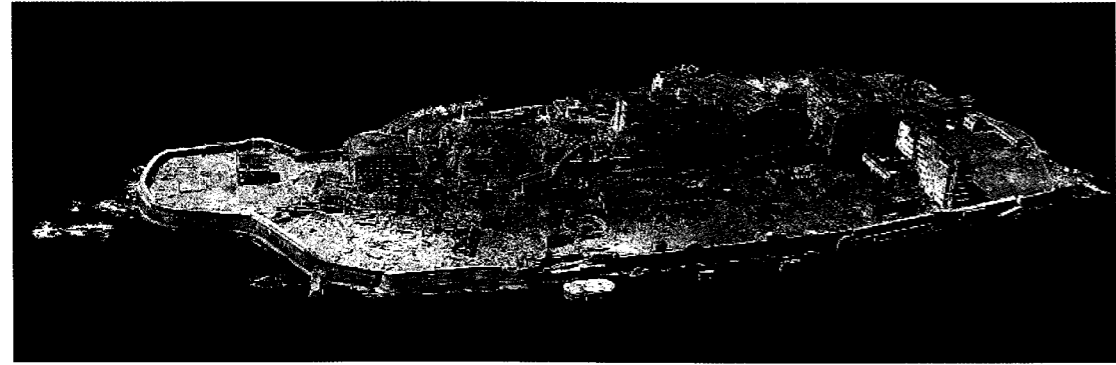
従来、産業遺産と言うと、古い機械類を納める巨大な建造物といった印象が強く、見た目も油とほこりにまみれているようで、他の文化遺産のようなスポットライトが当たりにくかった。しかし、これを単体としてとらえるのではなく、物語を支

える構成要素ととらえ直してみると、かつての技術者たちの汗と涙の結晶の一つ一つの要素と思えるようになり、そこでのドラマに思いをはせることも可能になる。考えてみると、日本は工業国と見られているのであるから、こうした産業遺産は世界にもアピールする日本の独自の遺産であるとも言えるのだ。

さらに言うと、日本は非西洋世界で初めて近代化を成し遂げた国であり、その近代化も単なる西欧の移植ではなく、日本の風土や伝統に合致した改善を日本人の手によって施した工夫のたまものとしての近代化であった。従って、こうした日本の近代化の足跡を明らかにすることは、非西洋世界全体にとっても貴重な経験をグローバルに明示することだといえる。

それが、とりたてて特別な文化の香り高い観光地にあるわけではなく、われわれの身近な工場地帯や臨海部に存在しているものである。身の回りの環境を見る目も変わってくるというものである。

面白いことに、経済産業省が今回作成した『近代化産業遺産群33』と銘打った一連の冊子には、「近代化産業遺産群」の英訳として Heritage



長崎市の「軍艦島」

り、技術史上、貴重な遺産でもある。挙げられた構成資産も、必ずしも文化的な価値を有するものでなくともよい。たとえ、後の改造や変更があったとしても、物語の重要性には変わりないからである。また、不動産だけでなく、「京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疎水などの近代化産業遺産群」を例に採ると、琵琶湖疎水の水車（琵琶湖疎水記念館所蔵）や疎水を用いた発電によって生まれた、紡績工場の中に据えられた木製のジャガード機（西陣織会館内所蔵）などのような機器類も含まれている。これら単体の構成資産は、合計五百七十五件に達している。その主なものには、「近代化産業遺産平成十九年度 経済産業省」と書かれたスチール製の立派なプレートが贈られた。今後、これらのプレートが外から見るところに据え付けられることになった折には、これらプレート板をあたたかも巡礼のようにめぐる産業観光の個人客も見られるようになるかもしれない。また、〇七年四月に成立した中小企業地域資源



島の最低地から最高地までをつなぐ「地獄段」(長崎市の軍艦島)

Constellations of Industrial Modernization が使われている。Constellation とは耳慣れない単語であるが、辞書を引くとこの言葉には「群」という意味もあるが、筆頭の訳語は「星座」である。なるほど、考えてみると星座も単に星の集合を漫然と見ているだけでは意味のある集まりには見えてこないが、その背後に神話という物語があると思ってみると、偶然に見える星の配置に意味が見えてくるというものである。

各地に散らばる産業遺産も、それだけでは単なる無用の長物か、極端な場合には産業廃棄物のように見えることもあるだろう。しかし、その背後に人の思いの込められた物語を見いだすと、俄然意味のあるまとまりと見えてくる。物語が一望、無秩序に配置された星々を「星座」に仕立て上げるのだ。これは言ってみれば、点から線、そして面へと手間をかけるのとは別の、点をそのままネットワークさせるといふ意味での「星座式」まちづくりだということもできそうである。

(注)「とうきょう自治のかけはし」(no.23)東京都区市町村振興協会、2008・1に寄稿した文章と一部重複していることをおこわります。